

作文能力発達に関する縦断的研究—その(1)

お茶の水女子大学附属中学校 田中 美也子
附属小学校 相原 貴文

本研究は、お茶の水女子大学附属小学校、同中学校、同高等学校の国語科教官と、同大学院日本言語文化専攻の教官ならびに学生で構成する「語彙研究会」による共同研究の第1回中間報告である。

研究の概要は、以下の通りである。

- ・研究のねらいおよび内容—作文能力の発達に関して、主に語彙の獲得および拡充の視点から研究調査する。
- ・研究の方法—小学校1年生～高校2年までの各学年、また大学生、留学生の同じ題名による作文(題名「手」—サンプル数各40)を、語彙拡充の視点から観点別に分析して統計処理し、それらに系統的かつ総合的に考察を加えることによって、語彙発達の縦断的な研究の方向を探る。

以上のような研究概要の共通理解のもとに、その成果を見直しならびに生徒の発達段階を踏まえた作文指導に、また、帰国子女ならびに留学生を対象とする語彙習得学習の指導の上に役立てたいと考えている。

今回の研究発表では、アプローチの方法と基礎データの作成に関する事項について報告する。